

2021年3月期 通期見通しについて

代表取締役社長
石黒 成直

石黒でございます。私から2021年3月期通期業績見通しについてご説明します。

2021年3月期 通期見通し修正のポイント

Attracting Tomorrow 

●市場予測（期初予測からの変化）

- ↳ 経済成長率は、米国、中国の指標は改善傾向にあるものの、世界全体では若干悪化。
- ↳ 在宅勤務・授業向けPC、タブレット需要の大幅増。
- ↳ スマートフォンは期初想定を上回る水準まで回復予想。
- ↳ 自動車は中国や日本でプラスの見通しだが、期初想定よりマイナスの水準。

●通期見通しを上方修正

- ↳ 上期の実績、特に2Qの業績回復、直近の受注動向を受け、通期業績見通しを上方修正。

●今後も成長が確実な市場への積極投資を継続

- ↳ Non-ICT市場向けの二次電池などを中心に成長投資を継続。全社設備投資計画をプラス修正。

●中間配当及び期末配当予想の修正

- ↳ 通期業績見通し修正に伴い、中間配当及び期末配当予想をそれぞれ10円増配し、年間180円に。

まず、期初で想定していた市場環境が、半年経過しどのように変化しているのか、またそれによって当社の需要動向にどう影響してきているのかについてご説明します。

マクロ経済的には、グローバルベースでは期初で前提としていたマイナス4%をやや下回る動向であることはご存知のとおりです。今後、新型コロナウイルス感染拡大の第二波、第三波がどのように影響するのか、注意深く見ていく必要があると感じています。デバイス別では、PC、タブレットおよびスマートフォンを含むICTデバイスは想定をやや上回る見通しである一方、自動車については需要の回復が遅れ、期初想定を下回る動向が続いています。

一方で部品の需要は、デバイスの需要が堅調なICT市場向けにおいて、中国大手スマートフォンメーカーへの規制強化による影響は一部あるものの、全体的には順調に推移しています。自動車市場向けについても、先ほどご説明しました通り、第2四半期に入って部品の受注が回復してきています。自動車自体の需要の大きな回復が見られなにもかかわらず、部品の需要が回復している傾向が見られますので、市場回復に向けた在庫の補充や将来の期待値需要も含まれているのか注意深く見ていく必要があると思っています。

今後の見通しについてですが、感染拡大の第二波、第三波の影響や在庫および期待値需要を含めた懸念は完全に払拭できないものの、上期の実績、特に第2四半期の業績回復、直近の受注動向を受けて、通期見通しを上方修正いたします。また、二次電池事業を中心に、今後も旺盛な需要と成長の見込める事業への成長投資を継続し、全社の設備投資計画を期初より約10%増額し、2,000億円といたします。

業績の回復に伴い、中間配当および期末配当の予想も増額し、年間180円といたします。

第3四半期の売上高増減イメージ

Attracting Tomorrow



(億円)

セグメント 区分	2021年3月期 第2四半期実績	2021年3月期 第3四半期予想 (対2Q)
受動部品	994	△1%～△4%
センサ応用製品	198	+8%～+11%
磁気応用製品	504	△5%～△8%
エネルギー応用製品	2,007	+0%～+3%
その他	114	—
合計	3,817	±0%

為替レート \$/Yen
為替レート EURO/Yen

106.23
124.06

為替前提

105.00
124.00

2021年3月期上半期決算説明会

© TDK株式会社・2020
広報グループ・2020/10/30・3

以上の市場予測に基づく下期の需要動向を踏まえ、第3四半期の売上高増減イメージをご説明します。全体の売上としては、シーズンリティの影響も含めて第2四半期と同等のレベルを想定しております。

受動部品セグメントは、セグメント全体では第2四半期から若干減少し、▲1%から▲4%の見込みです。自動車市場向けや5G端末を中心としたスマートフォン向けの売上が増加する一方、上期に需要がピークとなる5G基地局向けの売上が減少すると見えています。

センサ応用製品セグメントは、自動車市場向けの温度・圧力センサの受注が継続することに加え、受注の回復が遅れていたホールセンサも増加する見通しです。さらにTMRセンサがスマートフォン向け需要ピークを迎え増加、MEMSマイクロフォンはスマートフォン向けやIoTデバイス向けに増加、またMEMSモーションセンサは中国大手得意先への販売が減少するものの、その他得意先への拡販により売上が増加し、セグメント全体で8%から11%の増加を見込んでいます。

磁気応用製品セグメントは、HDDヘッドにおいて、ニアラインHDD用ヘッドの数量は増加するものの、PC向けやゲーム機向け等の民生用HDD用ヘッドが減少し、ヘッド全体の販売数量が約▲4%減少、またHDD組立事業の売上も減少を見込んでいます。HDDサスペンションはニアライン用サスペンションが好調に推移し、第2四半期から若干の増加、またマグネットについても自動車需要増加に伴い売上増加を見込んでいるものの、セグメント全体では▲5%から▲8%の減少と見えています。

エネルギー応用製品セグメントは、スマートフォン向け需要ピークに加え、PC、タブレット向けも堅調に推移、また家庭用蓄電装置向け等のハイパワー製品も順調に増加しており、第3四半期に売上のピークを迎える見えています。また電源は半導体製造装置等の産業機器向け売上がほぼ横ばいで推移し、セグメント全体で0%～3%程度の増加を見込んでいます。

2021年3月期 連結業績及び配当金見通し

Attracting Tomorrow



(億円)		2020年3月期 通期実績	2021年3月期 実績予想 (2020年7月発表)	2021年3月期 実績予想 (2020年10月発表)	実績予想対前期比	
					増減	増減率(%)
売上高		13,630	12,900	14,000	370	2.7
営業利益		979	700	1,100	121	12.4
営業利益率		7.2%	5.4%	7.9%	+0.7 pt	-
税引前利益		959	700	1,110	151	15.7
当期純利益		578	480	760	182	31.5
1株当たり利益(円)		457.47	379.98	601.64	-	-
配当金		上期：90円 下期：90円 年間：180円	上期：80円 下期：80円 年間：160円	上期：90円 下期：90円 年間：180円	-	-
為替	対ドルレート	108.82	105.00	106.00	-	-
	対ユーロレート	120.92	117.00	123.00	-	-
固定資産の取得 (設備投資)		1,734	1,800	2,000	266	15.3
減価償却費		1,250	1,400	1,400	150	12.0
研究開発費		1,175	1,200	1,200	25	2.1

2021年3月期上半期決算説明会

© TDK株式会社・2020
広報グループ・2020/10/30・4

最後に通期の連結業績見通しについてご説明します。

先ほどご説明しました需要環境および売上見通しを踏まえ、期初発表の見通しを修正いたします。

通期連結業績見通しは、売上高1兆4,000億円、営業利益1,100億円、税引前利益1,110億円、当期純利益760億円に上方修正いたします。配当金については1株当たり利益の増加を踏まえ、期初発表の中間80円、期末80円、通期160円を年間20円増配し、中間90円、期末90円、年間180円を予定しています。

下期の為替レートの前提は対ドルで105円、対ユーロで124円、通期での為替レートの前提は対ドルで106円、対ユーロで123円としています。

また、需要が拡大している二次電池を中心に設備投資を200億円増額し、年間2,000億円に修正します。

私からの説明は以上です。どうもありがとうございました。

将来に関する記述についての注意事項

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競争条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は、以下のページに後日掲載いたします。
https://www.jp.tdk.com/corp/ja/ir/ir_events/conference/2021/2q_1.htm